

Neues in Nara

Nr.82

2023年1月28日



クリスマス会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft Nara (JDG-Nara)

奈良日独協会 (会長 河野良文) 奈良市大安寺 2-18-1 大安寺内

Tel/0742-61-6312, Fax/0742-61-0473

<http://www.daianji.or/jdgn/index.html>

編集: 林 (hayashi@zeus.eonet.ne.jp) 峯本 (hmine-24@m3.kcn.ne.jp)

編集委員より: 会員の皆様からの積極的なご投稿をお待ちしています!

年頭のご挨拶

奈良日独協会会長・大安寺貫主 河野良文



トラウト博士墓前にて



根本大塔前で

新年おめでとうございます。国内も国外も世情は混沌として、暗澹たる世の中ではありますが、今年は卯年、ウサギのように穏やかで、且つ、飛び跳ねて喜べるような明るい出来事が起こることを願いたいものです。

昨年は、奈良日独協会の始まりともいえる、先代の河野清晃会長とトラウト博士との出会いの場、高野山への小旅行を実施することができました。トラウト博士の没後70周年の墓参ということでもありました。コロナ禍はいまだ収束を見ませんが、皆様のご協力のお陰で、恙なく無事に終えることができたことを感謝いたします。

トラウト博士は、ベルリン大学教授という肩書の元、京都にあったドイツ文化研究所の所長として来日、日本学の研究をされ、中でも、仏塔に関心を持たれて高野山に登られました。当時、先代会長は高野山大学の学生で、卒論のテーマに高野山根本大塔の研究をしていました。それがトラウト博士の目にとまり、共同研究と言う形で後に日独両語での出版物として成果を見たのです。この出会いによって、先代はドイツへの関心を深め、日独の文化交流や親善に力を入れ、奈良日独協会の発足につながったことはご承知の通りです。

トラウト博士は1952年にカールスルーエで75才の生涯を閉じられました。その後、日本をこよなく愛された博士の為に、先代はそのご遺骨を高野山に分骨することを願い出て各所に働きかけ、奥の院の一角に五輪塔を建立して供養をしたのです。

この度、杉木立の中にひっそりたたずむトラウト博士の五輪塔に、参加者全員で香を手向け、また、伽藍の中心に聳え立つ根本大塔に入って、日独の架け橋たらんとした二人の在りし日々を偲んだことでした。

今年は様々な行事も活発化しつつあります。ドイツ旅行に出かける人もありましょ。奈良でも欧米人の姿を見ることが増えてきました。ドイツ語もそろそろ聞こえてきそうです。奈良日独協会の活動も、少しずつ活性化していければと思いますので、皆様のご協力、ご参加を宜しくお願い致します。

日独交流の輪がますます盛んとなり、お互いの親睦が高まることを期待し、新年のご挨拶とさせていただきます。

合掌

ドイツ語会話講座開講のお知らせ!

奈良日独協会では、四月より「ドイツ語会話講座」を開講いたします。対象は初級(木曜)及び中級(火曜)の2クラス制で、場所は奈良市西部公民館。講師は、初級 Doi Gisela 先生、中級 Manfred Ringhofer 先生。会費その他詳細は、案内チラシをご参照願います。